

# 安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

第15号



## 【目次】

- ❖ 「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」プロジェクトの総合評価「S」
- ❖ 「HBCD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法」について
- ❖ (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の平成22年度競争的公募研究の活動報告
- ❖ センターの活動紹介、お知らせ、編集後記

## 科学技術振興調整費「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」で総合評価「S」

環境情報研究院と当センターが共同で実施した研究プロジェクト、文部科学省科学技術振興調整費科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤(平成19~21年度、代表 環境情報研究院 三宅淳巳教授)」の事後評価で、所期の計画を越えた取り組みが行われたとして、総合評価「S」という最高の評価をいただきました。これは、本学の特徴的な研究分野である「化学物質のリスク管理」に関して、健康リスクのみな

らず、事故や災害等によるフィジカルリスクを併せて事業者にも活用してもらえる情報プラットフォーム(<http://www.anshin.ynu.ac.jp/renkei/>)を構築したこと、多くの研究発表、シンポジウムや公開セミナー、事業者説明会等の開催による情報発信、大学院生や社会人教育への成果の活用実績等が高く評価されたことによるものです。情報発信や教育への活用にとどまらず、国内外との連携強化も求められており、今後も研究の一層の展開を図る所存です。

## 環境省環境研究総合推進費「HBCD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法」が採択！

当センターが協力して環境情報研究院から申請した研究プロジェクト、環境省環境研究総合推進費「HBCD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法」(代表:環境情報研究院・益永茂樹教授,平成22~24年度)が採択され、今年度スタートしました。この研究は、科学技術振興調整費「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」の研究成果である「ライフサイクルに亘るリスク評価手法」を活用して、社会に多く蓄積している難燃剤で

あるHBCD(ヘキサブロモシクロドデカン)を事例物質として取り上げ、代替リスクという観点で新たなリスク評価の手法について研究を実施するものです。研究成果は、当センターホームページに構築された情報プラットフォーム(前出)によって、順次発信することとしています。「化学物質のリスク評価・管理」に関する高い社会ニーズに応えるための研究プロジェクトであり、今後の成果を是非ご期待ください。

## (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究

### 「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討ー底板コーティングの余寿命評価システムの確立と風荷重に対する浮屋根の耐力評価ー」活動報告

本センター内に研究プロジェクトの拠点を置き、調査・研究を進めてきた、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)の競争的公募研究「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討ー底板コーティングの余寿命評価システムの確立と風荷重に対する浮屋根の耐力評価ー」は、1月28日に行われたプロジェクト推進会議で報告書原案の審議を終え、当年度の最終取り纏めを行っています。北海道から鹿児島に及ぶ延べ6ヶ所の石油備蓄基地における石油タンクでの現地調査に加えてラボ実験を並行しながら、昨年までの

基礎研究の蓄積に基づいた底板コーティングの余寿命評価システムが現場で適切に適応できることを確認のための研究を行ってきました。風荷重に対する浮屋根の耐力評価に関しては、石油タンクの浮屋根の強風によるき裂進展解析、余寿命評価を行い、その耐力を評価するとともに、強度信頼性評価システム開発の検討を行いました。これらの成果は、タンクの開放検査周期の延長、維持管理の効率化に寄与するものとして、関連する業界から強く期待されています。

## センターの活動紹介

### 高度リスクマネジメント技術者 育成ユニットの9月修了式

9月30日、環境情報1号棟大会議室において平成22年度高度リスクマネジメント技術者育成ユニット9月修了生の修了式を行いました。修了要件を満たした修士1名に「修了証」が授与されました。修了生の今後の活躍が期待されます。



### 公開セミナー等の実施報告

「水素社会構築の展望と安全」(6/21, 教育文化ホール大集会室)①持続型社会を目指すグリーン水素への展望; 工学研究院 太田健一郎教授 ②低炭素社会に向けた都市ガス事業の取組み; 日本ガス協会 久徳博文常務理事 ③水素ガスの安全; 環境情報研究院 三宅淳巳教授 ④水素容器の安全; 安心安全センター 竹花立美客員教授 (高压ガス保安協会機器検査事業部審議役兼高压ガス保安室長)。参加者は89名でした。

「安全文化構築と安心の課題」-安心の心理と課題へのアプローチ - (11/26, 教育文化ホール大集会室)①本セミナーの意義 (リスクマネジメントと安全文化); 安心安全センター 関根和喜特任教授 ②自然災害における安全・安心; 長崎大学工学部安全工学教育センター長 高橋和雄教授 ③安全文化醸成における大学の役割; 三菱総合研究所先進ビジネス推進本部戦略・マネジメントグループ 柴田高広主任研究員 ④規範やマナーから逸脱する心理; 横浜国立大学 村上史朗客員准教授(奈良大学社会学部准教授)。参加者は98名でした。

「化学物質のリスク評価を考える」(10/8~11/19 (全5回), 東京国際フォーラム G405)主催:横浜国立大学グローバル COE プログラム「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」共催:横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター①化学物質のリスク評価概論-1 (概説および国内外の動向, 有害性評価-1) ②化学物質のリスク評価概論-2 (有害性評価-2, 暴露評価) ③化審法におけるリスク評価-1(スクリーニング/リスク評価全体像, 排出量推計, 情報収集・データ選定等) ④化審法におけるリスク評価-2(有害性評価, 暴露評価, リスクキャラクターゼーション) ⑤事業者の化学物質リスク自主管理のための情報基盤, 今後の課題と新たな取り組み。各回40名が参加しました。

「高压ガス保安講習会」(1/18, 中央図書館メディアホール)主催:工学研究院安全衛生委員会, 施設部, 共催:安心・安全の科学研究教育センター①高压ガスに関する法律及び事故事例について; 安心安全センター 佐野尊客員准教授(高压ガス保安協会情報調査部) ②高压ガス管理システム説明会。参加者は148名でした。

## センターからのお知らせ

### 公開セミナー「地震災害と危険物施設の安全対策」

主催:安心・安全の科学研究教育センター

日時:平成23年2月23日(水)14:30~16:30

場所:工学部講義棟 C201

内容:①地震と石油タンク(座間信作・消防庁消防研究センター, 熊本大学, 横浜国立大学客員教授)

②石油貯槽の耐震設計(吉田聖一・安心安全センター特任教員(教授))

以上

### 当センター教員が表彰されました

2010年9月16日, 藤江幸一(安心・安全の科学研究教育センター長)が(社)環境科学会より学術賞を受賞しました。



## 新しい教職員の紹介

### 講師 花井 義道

前職:環境情報研究院 特別研究教員

平成22年11月1日付けで安心・安全の科学研究教育センターに異動して参りました花井義道です。横浜国立大学安全工学科を卒業後, 環境科学研究センター, 環境情報研究院で環境中微量化学物質の測定と解析に関する研究に従事してきました。当センターにおいても, これまでの経験を生かしていきたいと思えます。どうぞよろしく御願いたします。

### 特任教員(研究教員) 吉野 悟

前職:環境情報研究院 教務職員

今年7月より当センターの特任教員として着任し, 「都市の災害リスクマネジメント - 横浜・川崎をモデルとした実践的手法の構築 -」に取り組んでいます。フィジカルハザードの効率的な安全性評価手法を中心に調査・研究を行い, 安全社会の構築に少しでも貢献できるよう努めます。宜しく御願いたします。

## 編集後記

- ❖今年度も早いもので無事終わろうとしています。(か)
- ❖今年度最後のセミナー, 若干空席があります。(す)
- ❖センターもまた人が増えて賑やかになりました。(な)

## 安心・安全の科学研究教育センターニュース

第15号 2011年2月17日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

TEL: 045-339-3776

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: [anshin@ynu.ac.jp](mailto:anshin@ynu.ac.jp)